

第 19 回政策推進会議報告

日 時 1月6日(月)9時30分～10時38分
場 所 4 - 1 会議室
出席者 20人

1 年未年始期間中の業務状況等について

企画財政局長から報告

- ・ 業務としての出勤はなし。
- ・ 平成 25 年末に、平成 26 年度の地方財政対策の概要が国から示され、平成 25 年度と同規模の一般財源総額が確保されているとの内容であった。その詳細が 1 月下旬に出されるとのことだが、現在のところ、平成 26 年度の本市の財政にどういった影響があるかはまだわからない。今週 1 週間で政策調整を再調整して予算編成作業を進めるといふかなり厳しいスケジュールであるが、平成 26 年度予算編成に向けて皆様のご協力をいただきたい。

総務局長から報告

- ・ 市民向けの業務として出勤はないが、内部管理的な業務として、塚口サービスセンターの土曜開庁に向けて電子計算機器を試験稼働させる必要があり、情報政策課の職員が 1 月 3 日に出勤している。また、1 月 5 日に採用試験があったため、職員 5 名が出勤し、試験会場の関係から市立尼崎高校の事務長にも出勤していただいた。
- ・ 昨年は、組合に様々な提案をして妥結に至った。その中でも特に、人事評価制度について組合と交渉する中で、今年から課長級以上の職員については人事評価の結果を反映した昇給制度が運用されるが、課長補佐以下の職員についても今後適正に運用できるように取り組んでいきたい。

防災担当局長から報告

- ・ 年末は特にひったくりが多くなるため、12 月 28 日から 31 日まで、北部の駅を中心に尼崎市自主防犯パトロール(青パト)を実施した。その効果が出たのか、12 月 28 日から 1 月 5 日までの認知されたひったくりは、昨年度が 6 件あったのに対し今年度は 0 件であった。
- ・ 昨年は異常気象や地震、台風、大雨などが発生しており、私たちは自然の中で生きさせていただいているという謙虚な姿勢で対応していかなければならないと感じた。市民の意識向上ももちろんだが、まずは職員の意識改革、組織の増強も含めて防犯・防災に対する職員の意識が高まるよう取り組んでいきたい。

資産統括局長から報告

- ・ 保全担当の警備室の業務として、12 月 28 日から 1 月 5 日の 9 日間の各種届出は、死亡、婚姻、出生、戸籍等が 219 件、市営葬儀等の電話受付が 69 件であった。
- ・ 公営事業所では、12 月 30 日まで「今年もありがとう競走」を開催しており、売上が 12 億 5,400 万円で前年から 1 億 400 万円の増となっている。また、昨年 9 月 25 日にセンタープール駅に隣接する外向け発売所(サンプルピア)を開設しており、1 日平均の売上でいうと予算を下回っているが、12 月 31 日に 3,550 万円という過去最高の売上げがあった。年始は 1 月 4 日から福娘福男選抜男女 W 優勝戦が始まっており、職員が出勤している。

- ・ 今年の課題としては、入湯税の過少申告問題について、再発防止策として業務マニュアル等を作成しており、3月までには一定の成果物を作成して今後組織に根付かせ、また庁内にもその取組内容について発信していくことが局として必ずやらなければならない業務だと認識している。さらに市税の収入率について、平成26年度予算要求として目標に掲げている収入率は92.7%となっている。これは震災以降最高の収入率で、平成26年度の組織体制整備の効果額も含めており、この収入率に向けて局全体として取り組んでいきたい。

市民協働局長から報告

- ・ コールセンターへの問い合わせであるが、今年度は休みの日数が増えた分増加しており、昨年度は234件であったのに対し、今年度の全体件数は618件であった。問い合わせの主な内容は、年末年始の業務やごみ収集に関すること、国保・年金・戸籍など、生活に密着した問い合わせであった。塚口サービスセンターは12月28日と1月4日の土曜日に開庁しており、それぞれ職員が出勤している。また、火災の発生に伴い、12月27日に立花地区、12月29日に武庫地区、1月3日に園田地区でそれぞれ地域振興センターの職員が出勤している。
- ・ 昨年来、「ともに学び、ともに考え、ともに行動する」を局のモットーにしており、市民や地域に学び、いつかやるのではなく、常に問題意識をもって考え、誰かではなく自ら行動するという姿勢で取り組みたい。市民窓口の第一線として、市民目線の対応をしっかりとしていきたい。

医務監から報告

- ・ 精神科救急について2件電話相談があった。休日夜間急病診療所では、12月28日から1月5日の9日間で3,092件、内容としては耳鼻科が最も多く、続いて内科、小児科が多かった。そのうち、後送病院に転送したのが47件であった。口腔衛生センターでは28件の受診があった。
- ・ 斎場では、元日と友引の3日を除いた3日間で大人54件あった。
- ・ 生活衛生業務では、食品衛生監視員が卸売市場に29日・30日と出向き、重点的な監視指導を行った。
- ・ 年末にアクリフーズ群馬工場で生産された商品から農薬マラチオンが検出された件に関して、当事務所では31日に報道陣から問い合わせ等の電話があった。業者や消費者からの問い合わせについて対応し、また、消費者への注意喚起や商品の回収漏れがないか調べるため、4・5日と職員が出勤して準備態勢を整え、本日6日から業者周りを行っている。
- ・ 今年の抱負として、健康問題、特に健康危機管理に取り組みたい。新型インフルエンザや災害救急のマニュアルを今年度中に作成するべく、専用外来や協力機関との調整・交渉を進めたい。また、尼崎・塚口統合新病院に係る救急医療の問題に来年度中には整理したい。

健康福祉局長から報告

- ・ 福祉関係の業務であるが、12月29日に火災が発生し、小災害見舞金の支給事務を行った。
- ・ 福祉事務所では、生活保護受給者への対応が10件あり、そのうち7件がお亡くなりになっている。きずなサポートセンター尼崎に寄せられた生活保護相談はなかった。
- ・ 平成26年度の課題を考えると全部で20近くあり、平成26年度は相当試練の年になると感じている。その中でも特に、発達障害への取組を重点化して進めたい。身体障害や知的障害、精神障害以上に、発達障害の方の潜在的な数はかなりのもので、できる限り早期に発

見し、適切な養育、あるいは就学にあたっては学校へきっちり情報を伝えるという取組のシステム化を進めたい。また、高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画の改定、障害者計画・障害福祉計画の改定という大きな計画を作ることになっており、10年先あるいはそれ以上先の高齢者・障害者の方にどのような生活をしていただくのかということ念頭において計画作りをしたい。

こども青少年局長から報告

- ・ こども青少年局では土日の開庁職場があり、まず、保育所及びこどもクラブの職員が28日（土）・4日（土）に通常業務として出勤している。また、青少年センターでは日曜日も開庁しているので、28日（土）・4日（土）・5日（日）と職員が出勤し通常業務をしている。
- ・ 年末に局内全課長と打ち合わせをした。子ども・子育て支援新制度にできるだけ支障が無いよう運営することが大事で、その前提として、子どもが利用する場が安全・安心であることが非常に重要だと感じている。そのためにも、まずは職員の意識付けをはかりたい。また、給付制度についても、国の制度で消費税の増税に関連するものがあるため、情報収集をはかっていきたい。

経済環境局長から報告

- ・ ごみの収集については、年末が30日まで、年始が5日から始まっている。
- ・ 尼崎市公設地方卸売市場において、尼崎中央青果株式会社が資金繰りの悪化を理由に12月31日付けで業務停止を行った。これを受けて経済部では、年末から年始にかけて対応に追われた。当面、仲卸業者の組合である尼崎青果卸売協同組合が業務代行を行っており、混乱無くスムーズに運営できるよう努めたい。また、5日の初市式は予定通り行われた。
- ・ 抱負としては、市内経済の好循環につながる施策の取組として尼崎版グリーンニューディールの具現化に取り組みなければならないのはもちろんのこと、内部向けの取組として、昨年、経済環境局職員の行動規範としてリーダーシップ、フォロアーシップ、パートナーシップを発揮し組織目標が達成できる組織づくりを目指していた。今年は引き続き、具体的な組織目標の達成に向けて取り組むとともに、特に足元の施策の妥当性や根治性を1年かけて洗い直す年としたい。また、個々の職員の能力アップを意識した、マスト（組織のためにすべきことをこなす能力）、キャン（経験を通じてできる能力）、ウィル（やりたいことを提案できる能力）これら3つの頭文字をとったMCWサイクルを意識した組織づくりをしたい。

都市整備局長から報告

- ・ 放置自転車対策の関係では、定期券の販売業務で12月29日、30日、1月1日と職員が出勤し対応している。
- ・ 建築業務では、設計変更など通常業務の延長にはなるが、12月28日、29日、30日、1月4日、5日と出勤している。
- ・ 下水道部の4ポンプ場では、1日約14～15人体制で、北部浄化センターも同様に、1日約15～18人体制で職員が出勤している。
- ・ 都市整備局全体では、年末年始の9日間で延べ292人が出勤した。特に大きな事故はなく、通常業務を行った。
- ・ 今年の抱負であるが、都市整備局は道路・橋梁・住宅・下水道施設・公園といった基盤施設を数多く抱えており、これらの施設そのものが更新や長寿命化が必要になっている。そうし

た対応を計画的にしっかり行っていくべく現在計画作りをしており、今年もしっかり進めていきたい。特に、市営時友住宅の建替えが本格化しており、本市では第1号となるPFI方事業契約となるが、よき事例となるよう取り組んでいきたい。常々、前向きに仕事に取り組むよう職員にお願いしているが、私自身もプラス思考で仕事に取り組みたい。また、市民目線に関連して、昨年非常に市民目線を強く意識させられる事例が都市整備局内であった。都市整備局では建築行政を担っているが、建築基準法の枠内でしか対応できないというような市の対応によって、市民の市に対する不信感がつものことになった事例である。建築基準法の枠内に留まるだけでなく、何らかの対応ができないのか職員と議論しながら市民目線で考えていきたい。

消防局長から報告

- ・ 平成25年中の火災の年間総件数は201件で平成24年と比べ46件の大幅な増となっており、救急の出動件数は25,814件で過去最高となり、1日あたり約70件となっている。救助についても、390件と増えている。
- ・ 年末年始の火災発生件数は6件で、救急出動は1日平均80件と平成25年の平均よりも多くなっている。平成25年は火災発生件数が例年より多くなっているため、地域での防災訓練を工夫し、地域の防災意識の向上に努めたい。

水道事業管理者から報告

- ・ 年末年始の職員の出勤について、管路の維持・修繕業務は延べ38人、施設関係では、神崎浄水場は場内の管理と水質検査で延べ21人、園田配水場は延べ64人、その他予算編成事務等々で延べ11人それぞれ出勤している。
- ・ 年末年始の修繕件数は33件、そのうち道路に係る部分が5件で、断水など大きな事故はなかった。
- ・ 水道、工業用水道ともに維持管理から再構築の時代に入り、本市だけでなく他の事業体でもウェイトリセットの時期を迎える。平成26年度は水道・工業用水道ビジョンあまがさきが2期目の折り返しの年となるため、事業計画の進行管理を進めるとともに、3期目の事業運営方針や事業計画の目標設定といった作業に入る年となり、しっかりやっていきたい。

自動車運送事業管理者から報告

- ・ 12月30日から1月3日まで日曜祝日運行とし、元旦は6時の始発時間に合わせて管理職員も出勤し出発式を行った。この間、事故は発生しなかった。
- ・ 市営バス事業の民営化に向け、現在、自動車運送事業の移譲に向けた優先交渉権者を選定しているところで、2月中には業者が決定する予定だ。決定後、平成27年度末の円滑な移譲に向けて手続を進めていく。業者が決まると職員の処遇についても具体的な説明ができるので、職員には丁寧に説明していきたい。民営化される最後まで、引き続き気を引き締めて事業に取り組む。

議会事務局から報告

- ・ 年末火災特別警戒の激励のため、総務消防委員が2チームに分かれて市内各消防施設を巡回し、職員も同行した。
- ・ 昨年の市議会議員選挙で新しいメンバーとなったが、昨年12月に開催された議会のあり方検討委員会では、議会からの情報発信や広報のあり方を改めて検討していきたいという意見

が多くの会派から出た。また、会派によって温度差はあるが、議会基本条例の検討についても意見が出ており、今年1年で結論が出るものではないが、なんらかの形になるよう積極的に進めていきたい。

教育長から報告

- ・ 年未年始については特に大きなトラブル等はなかった。
- ・ 尼崎中央青果株式会社の業務停止に関連し、小学校給食の食材調達がうまくいくのか現在調整しているところだ。
- ・ 今年の抱負であるが、今年は大きな3つの山に登る年だと思っている。まず1つ目は小・中学校の適正規模・適正配置で、平成26年4月1日に北難波小学校と梅香小学校を統合した難波の梅小学校が開校するが、統合が予定されている残りの小・中学校についても教育委員会の責任でもって進めていきたい。2つ目は、平成27年度からの公立高校の学区の拡大再編に向けた学力向上策を講じなければならないことだ。宿題だけではなく、予習・復習を含めた家庭学習ができていないという課題があり、これは一生涯に影響する大切な問題であり、1人で机に向かう習慣を全ての子供に身に付けさせたい。3つ目は、学校教育と社会教育との連携である。昨年度問題になった学校開放についても、学校教育と社会教育との関係がうまくいっていないということがあったのではないだろうか。家庭や地域の人たちにも学校での取組をもっと具体的に理解していただけるよう努力する必要がある、それにはまず、教育委員会内の学校教育と社会教育が一緒になって考え、具体的な取組を進めていかなければならない。いずれにせよ教育委員会内には課題が多く、この他にも学校施設耐震化などもあるので今年もしっかりと進めていきたい。大きな山に登りきったときに、仕事に対する充実感や誇りを持てるような仕事をしていきたい。

顧問から報告

- ・ 年末は久しぶりに東京に帰り、行政情報から遮断される時間を過ごしてみると、行政の情報がいかに入ってこないかを実感した。行政の情報から遠いところにいる人にいかに情報を伝えるか、インフォメーションではなくコミュニケーションとしてどう伝えるかが課題だと改めて認識した。また、人が財産であるという尼崎市の魅力を生かし、日本一ひとが育つ地域、日本一ひとが育つ組織になれるよう、微力ながら私も頑張っていきたい。昨年から職員育成ゼミとして船木ゼミを開催し、年度末には研修生による研究テーマの報告会を予定している。すでに目標を掲げているチームもある一方で、なかなか研究が進まないチームもあるが、温かい目で報告会に参加していただきたい。

理事から報告

- ・ 尼崎市に着任してから2年半が経ったが、この間、尼崎版グリーンニューディールやソーシャルビジネスといった全国的にもまだまだ新しい取組を始めた。市民の実感としてまちが変わってきたという段階にはまだまだ至っていないが、今後も着実に進めていきたい。
- ・ 昨年はシティプロモーションサミットを開催したが、その中で特に印象的だったのが、長崎の田上市長がおっしゃっていた言葉で、市役所の職員は“市役所”の職員という意識が強いが、まち全体が職場であるというものだ。本市の職員にも、尼崎のまち全体が職場という意識のもと、積極的にまち中に出て行ってほしい。

2 その他

- ・防災担当局長から、南海トラフ巨大地震津波浸水想定図（阪神・淡路地域）の作成について説明。

以 上